

令和6年度 自己評価表

(学校名) 愛媛県立宇和高等学校
(学校番号) 38

教育方針	重点目標	自己実現に向けた基礎力と判断力を育む教育の推進 ～自己理解力と表現力を養う～			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 学校経営	(1) アイデアを生み出す生徒の育成	○「探究活動」の深化を図り、生徒と社会が双方向で向き合うことで、課題を発見し、その解決策を提案し、実行できる力を養う。生徒が「探究」による成長を実感できる活動を目指す。 (A: 充実度100% B: ~80% C: ~60% D: ~40% E: 40%未満)	B	○探究活動の意義やプロセスの理解を図り、基礎的なスキルを習得させるために、地域や企業と連携し、1年生を中心に探究活動を充実させた。 ○2年生においても探究活動の深化を図るために、地域との連携や探究的な活動を実践した。 ○総合的な探究の時間の充実度(肯定的評価)は、進路探究を実践した3年生が最も高く(91%)、2年生(85%)よりも1年生(89%)の方が高い評価が表れた。	○さらに「探究活動」の深化を図り、課題解決能力を高めるための実践を計画的に行う。そのために、学校魅力化コーディネーターとの連携を強化し、学年団をはじめ、全教職員との共通理解を図りたい。 ○探究活動への協力体制を強化するため、外部講師等をコンソーシアムとして組織化することを検討し、持続可能な探究協力体制の構築を目指す。
	(2) 安心・安全な学校づくり	○無通告避難訓練を含む防災訓練等各種の危機管理訓練を通して、危機管理意識を高め、安全・安心な生徒の学びを確保するとともに、「危機管理マニュアル」を実態に即して見直し、非常時の対処方法を徹底する。 (A: 4回以上 B: 3回 C: 2回 D: 1回 E: 0回) ※無通告訓練未実施は評価を1ランク下げる。	B	○令和6年度中に無通告避難訓練を実施し、生徒の避難状況を確認した。 ○危機管理マニュアルについては、教職員の配置及び学校災害対策本部の設置基準や担当部署の変更を行った。	○学校環境・施設設備については令和8年度からの総合学科への改編に伴う設備の充実がさらに進められる予定である。 ○危機管理マニュアルについては、令和7年度も実情に合わせて改訂していく。また、生徒の安全意識を高める取組を続けていきたい。
	(3) 教育活動の公開と情報発信	○情報セキュリティ研修の充実を図り、情報漏えい等に対する意識の高揚を図り、個人情報漏えい等の未然防止対策を徹底する。 (A: 参加率150%以上 B: ~100% C: ~90% D: ~80% E: 80%未満)	B	○教職員に対する情報セキュリティ研修を次の通り実施した。4月3日(水) 10名、6月17日(月) 55名、参加率118%	○研修の内容の充実を図り、本年度研修のような具体例から情報漏えい等に対する意識の高揚を図りたい。
	(4) 職員の資質向上	○ホームページやSNS等の情報発信を充実させ、生徒・保護者・地域の理解を深めるとともに学校の魅力を発信する。 (A: 更新200回以上 B: ~150回 C: ~100回 D: ~50回 E: 50回未満)	B	○ホームページの情報発信を充実させ、生徒・保護者・地域の理解を深めるとともに学校の魅力を発信した。 ホームページ更新回数 193回	○発信回数及び内容の充実を行い学校の魅力の発信する。
2 学習指導	(1) 家庭学習の充実	○公開授業週間に他の教職員の授業等を相互参観し、自己修養や生徒理解に努める。 (A: 参観率100% B: ~70% C: ~50% D: ~30% E: 30%未満)	D	○呼びかけが不十分であり、考査返却・成績処理の時期と重なり時間的余裕がなかった。校内研究授業は約50%の参観があり、該当時間に授業があった教員を除く、多くの教員が参加した。	○事前の呼びかけをきちんと行う。また、公開授業週間だけでなく校内研究授業についての参観も、目標の項目に入れてもよいのではないかな。
	(2) 教科指導の充実	○家庭と連携し適切な課題の設定により1日の家庭学習時間2時間以上を確保させ学習習慣の定着を図る。 (A: 2時間以上 B: ~90分 C: ~60分 D: ~30分 E: 30分未満)	B	○10月に実施した「生徒による授業評価」の中の「予習復習をしている」という項目において、24.5%の生徒が低い自己評価をしている。(R5:17.5%) ○家庭学習時間の確保に努めており、家庭学習時間2時間以上の割合は、86.3%で、継続して、課題設定を考慮する必要がある。(R5:85.5%)	○授業評価の結果について、各教科で再検討するとともに、家庭学習時間確保のため、各教科における課題内容を改善する。 ○生徒の進路希望を把握し、適切な質と量の課題を課して進路実現へつなげたい。
	(3) 読書指導の充実	○魅力的な授業で生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学ぶ態度を育成するとともに、生徒各自の健康管理を促し、皆勤率を向上させる。(学校での授業を大切に指導) (A: 皆勤率70%以上 B: ~60% C: ~50% D: ~40% E: 40%未満)	D	○図書貸出冊数は7.0である(1/24現在)。授業やHR活動の時間を利用して、クラス全体で図書館利用をしたり、学校行事のVTRを流すなどして利用促進に努めたが、読書離れが見られる。	○引き続き、授業内容を工夫し、主体的に学ぶ態度の育成に努める。 ○計画する学校行事等は、通常通り実施し、楽しい学校生活を送らせたい。引き続き、生徒に健康管理を促し、皆勤率を向上させたい。
	(4) 資格取得の奨励	○生徒の興味・関心を尊重して読書意欲の向上を図り、生徒の言語活動を充実させるとともに、朝読書週間を活用して朝読書の定着を図り、図書貸出冊数年間1人10冊以上を目指す。 (A: 10冊以上 B: ~7冊 C: ~4冊 D: ~1冊 E: 0冊)	B	○漢字検定準2級2名、3級1名、合計3名合格 ○英語検定2級5名、準2級3名、3級3名、合計11名合格 ○商業科検定: 全商各種検定1級28名、2級24名、3級39名、合計91名合格 ○家庭科検定: 保育3級4名、4級2名、被服製作3級3名、4級3名、食物調理3級11名、4級34名、合計57名合格 ○延べ合計162名	○図書館の利用促進に努めたい。また、三瓶分校の蔵書を引き継ぎ、校内に第二図書分室を整備する予定である。本と生徒をつなぐ場所として、探究活動の場として、学びと出会いの場所を作りたい。
(4) 資格取得の奨励	○各種検定に対する受験意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させ、検定試験合格者数延べ200人以上を目指す。(漢検、英検、全商、家庭) (A: 200人以上 B: ~170人 C: ~140人 D: ~110人 E: 110人未満)	C	○漢字検定準2級2名、3級1名、合計3名合格 ○英語検定2級5名、準2級3名、3級3名、合計11名合格 ○商業科検定: 全商各種検定1級28名、2級24名、3級39名、合計91名合格 ○家庭科検定: 保育3級4名、4級2名、被服製作3級3名、4級3名、食物調理3級11名、4級34名、合計57名合格 ○延べ合計162名	○引き続き、資格取得である各種検定に対する受験意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させ、各種検定試験の合格者数を増やしたい。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
3 生徒指導	(1) 多様性を認め合う生徒の育成	○多様性を認め、自他を尊重する態度を育てる。 「学校評価アンケート」で評価 (A:100% B:~80% C:~60% D:~40% E:40%未満)	A	○学校評価アンケートの「命の大切さや健康安全に関する指導がよく行われていますか」の問いに「行われている」と「概ねできている」と回答した生徒が89%おり、成果を感じている。SNSのトラブルが数件発生しているので、情報モラルの指導は継続して行いたい。	○多様性に配慮した校則の見直しや生徒指導、情報モラルについて今後も継続して指導する。
	(2) 行動力を育む人権教育の充実	○自他の人権を守るための行動力をはぐくむ人権教育の推進に努め、生徒の技能的側面の充実を図る。 「人権に関するアンケート」で評価 (A:100% B:~80% C:~60% D:~40% E:40%未満)	B	○人権委員を中心に様々な研修に参加し、その成果を発表・発信するなど人権教育の推進に努めた。「人権に関するアンケート」における生徒の技能的側面の充実を図る項目の多くが、肯定的な評価が90%を超えるとともに、2回目のアンケートでは数値が上昇した。	○人権に関わる取組を充実させるとともに、人権委員を中心に様々な研修に参加し、その成果を人権委員の言葉で発表・発信する機会をさらに増やし、学校・家庭・地域に還元していきたい。
	(3) 教育相談・特別支援教育体制の充実	○全校一斉面談や教育相談等を充実させるとともに、家庭と連携して問題を早期に発見できる体制づくりに努め、生徒の学校充実度の向上を目指す。 「高校生活悩みの調査」で評価 (A:100% B:~80% C:~60% D:~40% E:40%未満)	B	○生徒の学習充実度・部活動充実度・人間関係充実度は、比較的高い傾向80%以上であるが、自分の進路についての順調度（進み具合）についての充実度は、1.2年生58%、3年生62%（5月）と低調であった。進路についての悩みや不安を軽減させる工夫が必要である。	○クラス等での面談を実施しながら、生徒が教師に相談しやすい環境作りを進める。日頃から教師が生徒一人一人の表情等に注意するとともに、家庭と連携して問題を早期に発見できるような指導体制作りを進める。
4 進路指導	(1) 進路指導の充実	○進学及び就職希望者への小論文（作文）及び面接の個別指導を充実させ、進学・就職率を100%を目指す。 (A:100% B:~90% C:~80% D:~70% E:70%未満)	B	○進学及び就職希望者に対して、全教職員体制で生徒個々に応じた小論文（作文）及び面接指導を実施した。進学・就職内定率は、97.1%（1月31日現在）となっている。	○進学及び就職希望者に対して、全教職員体制での面接等の個別指導を今年度同様に計画的に、効率良く実施する。
	(2) 進学指導の充実	○国公立及び難関私立大学の合格者数15人以上を目指す。 (A:15人以上 B:~12人 C:~9人 D:~6人 E:6人未満)	C	○全教職員の協力のもと、総合型選抜及び学校推薦型選抜の受験指導がなされ、国公立大学合格者10名（1月31日現在）となっている。現在は一般入試合格に向け、入念な個別指導を行っている。	○教員全体で情報共有・意思統一を図り、連絡・相談を一層密にし、早期からの進路選択に係る取組を生徒に促す。
	(3) 就職指導の充実	○綿密な就職指導を行い、生徒一人につき面接練習を10回以上行うことで自信を深めさせる。 (A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:7回未満)	A	○関係教員だけでなく全教職員が就職希望生徒に対して、夏季休業中から受験直前に至るまで、10回を上回る個人面接の練習を重ねられた。	○教員の面接指導力が更なる向上を遂げられるように、校内外の研修会等への参加や教員相互の情報交換を行う。
5 特別活動	(1) 部活動の充実	○各部のレベルアップを図り、県大会出場者数90人以上を目指す。 (A:90人以上 B:~60人 C:~40人 D:~30人 E:30人未満)	A	○94名が県総体出場を果たした。	○選手が主体となって、目標を掲げて活動できるように運営し、県総体出場者数90名以上を目指す。
	(2) 地域に貢献する活動の充実	○四国大会以上（全国含む）の出場者数10人以上を目指し、部活動の魅力を高める。 (A:10人以上 B:~7人 C:~5人 D:~2人 E:2人未満)	A	○陸上競技部8名が四国大会出場を果たした。 ○陸上競技部2名、農業クラブ1名、英語スピーチコンテスト1名が全国大会出場を果たした。	○より高い目標を掲げることで充実した活動を行い、他者との協働に喜びを感じられるような選手を育てる。 ○先輩生徒の取組や成果を後輩生徒が引き継いでいけるようにする。
	(3) クラブ活動の充実	○農業クラブ等における各種発表・競技のレベルアップを図り、県大会出場者数10人以上を目指す。 (A:10人以上 B:~8人 C:~5人 D:~2人 E:2人未満)	A	○各種発表・競技の県大会に17名の生徒が出場した。 ○フラワーデザイン競技及び第2回意見発表の部において優秀賞を受賞することができた。	○一部の生徒だけではなく、全クラブ員に高い目的意識を持たせて、取り組ませたい。
6 業務改善	(1) 業務の効率化	○ICTの効果的利用、教育業務支援員やスクール・サポート・スタッフ等の活用により、教職員の業務軽減を図り、ゆとりある業務体制の構築を目指す。 (A:100% B:~90% C:~80% D:~70% E:70%未満)	C	○ICTの活用では、テスト自動採点システムEILS-PBT（百問繚乱）を多くの教職員が活用し、採点業務、評価等の集計業務の効率化が図られた。 ○スクール・サポート・スタッフの活用が日常化し、教員の業務負担の軽減が図られた。	○テスト自動採点システムEILS-PBT（百問繚乱）の更なる活用を学校全体の取組として進める。 ○部活動指導体制の工夫を行い、業務負担の軽減につながる体制を構築していきたい。
	(2) 職場環境の整備	○教職員に対する管理職面談の積極的な実施により、教職員の職場環境等の改善に努める。 (A:面談回数4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:未実施)	D	○依然として教職員の多忙感はぬぐい切れていないが、教職員間の積極的なコミュニケーションにより、風通しの良い職場風土が築かれつつある。 ○管理職面談については、十分な面談機会を確保できなかった。	○面談機会の確保に努め、教職員の健康面、ストレスの状況、業務の遂行状況や業務負担など、課題を早期に発見できるよう取り組む。

評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。